



## 認知症当事者の声を反映！

認知症になってからの前向きな暮らしを支える

# 「認知症あんしんガイドブック」を 作成しました！

区ではこのたび、誰もが認知症になってからも地域で安心して暮らしていただけるために、「認知症あんしんガイドブック」(認知症ケアパス)を作成しました。作成にあたっては、認知症の当事者やその家族のほか、高齢者総合相談窓口 ケア 24 (地域包括支援センター)の職員と共に、構成から内容までの全てを検討しました。

また、区内にある認知症介護研究・研修東京センターからも、多くの助言をいただきました。

※認知症介護研究・研修東京センターは、厚労省が認知症介護の中核機関として設置した公設民営の組織であり、区は、令和5年3月に認知症介護研究・研修東京センターと協定を締結し、認知症施策に関する事業の充実に向けて、連携・協働しています。

このガイドブックは、3月17日(火)から区役所本庁舎2階の高齢者在宅支援課で配布を開始します。また、4月以降は高齢者総合相談窓口 ケア 24 (地域包括支援センター)か、区民事務所や図書館、地域区民センターなど、区内96か所でも配布します。

### 本ガイドブックの特徴

#### ★認知症当事者の声を反映して作成

地域で暮らす認知症の当事者の意見や経験を取り入れ、わかりやすい表現で、具体的な行動につながる内容としました。

#### ★家族や支援者のみならず、認知症の当事者に向けた構成

家族や支援者向けの冊子が多い中、認知症の当事者が知りたいこと、役立つ情報に焦点をあて、わかりやすくまとめました。

#### ★切り取って使える「希望をかなえるヘルプカード」を付属

冊子から切り取り、外出時などに活用できる『希望をかなえるヘルプカード』を冊子内に掲載しています。カードには、杉並区のキャラクター『なみすけ』と『ナミー』をあしらい、親しみやすいデザインに仕上げました。

#### ★区内の“つながる場所”を写真入りで紹介

認知症カフェや地域の交流拠点など、相談や仲間づくりができる区内のさまざまな場を、写真と共に掲載しています。

区では、本ガイドブックを通じて、認知症の方が地域とつながり、安心して暮らし続けられる環境づくりを一層進めてまいります。



ガイドブックとヘルプカードを持つメンバー



区ホームページ

<https://www.city.suginami.tokyo.jp/s039/1190.html>



【認知症介護研究・研修東京センター副センター長 永田 久美子氏のコメント】

このガイドブックは、認知症の当事者をはじめ、多くの方々の力を結集して作り上げたものです。認知症があってもなくても、この杉並で共によりよく生きていける一歩を後押しする冊子です。より多くの方に手に取っていただき、理解と支え合いの輪が広がることを願っています。

【地域包括ケア推進担当課長 田中 希美子のコメント】

令和6年1月に認知症基本法が施行され、新しい認知症観として『認知症になっても、できること・やりたいことがあり、仲間や地域とつながりながら、自分らしく暮らし続けられる』という考え方が示されました。共生社会の実現に向けて、このガイドブックを多くの方に活用していただければ幸いです。

【報道機関 問い合わせ先】

地域包括ケア推進担当課：03-3312-2111 内線3231

広報課報道係：03-3312-2111 内線1502